

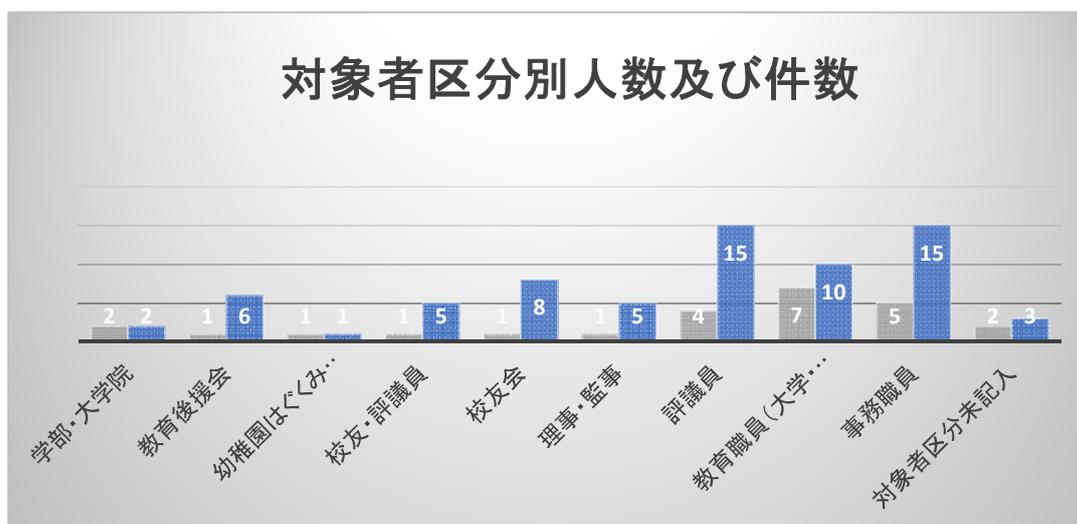
次期長期ビジョン素案に係る意見の集計結果について

- 1 実施期間 2016(平成28)年4月18日(月)～5月13日(金)
- 2 実施対象者 理事、監事、評議員、大学教員、併設校教諭、事務職員、学生(学部・大学院・留学生別科)、父母及び校友
- 3 実施方法 学生、教育職員(大学・併設校)、事務職員はインフォメーションシステムのアンケート機能により実施
保護者・父母、校友、理事・監事、評議員は文書やメール、FAXにより実施
- 4 実施結果

(1)対象者区分別人数及び件数

対象者区分		人数	提出件数
学生	学部・大学院	2	2
保護者・父母	教育後援会	1	6
	幼稚園はぐくみの会	1	1
校友・評議員	校友・評議員	1	5
校友	校友会	1	8
理事・監事	理事・監事	1	5
評議員	評議員	4	15
教職員	教育職員(大学・併設校)	7	10
	事務職員	5	15
対象者区分未記入		2	3
合 計		25	70

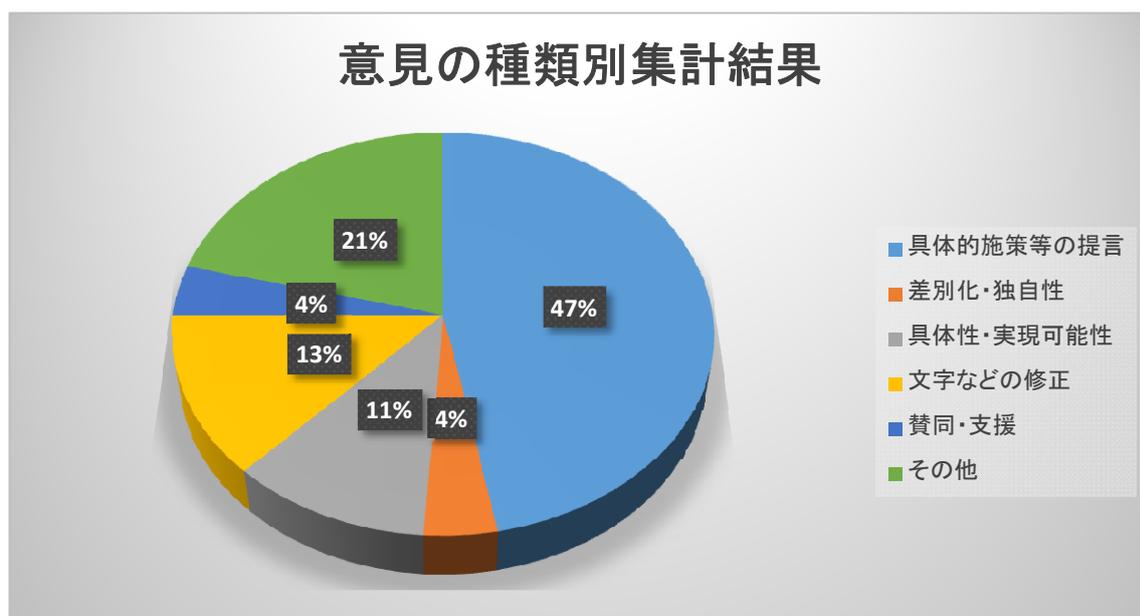
※意見提出人数については実人数、意見提出件数については延べ件数とした。



(2)意見種類区分コード表及び集計結果

提出された意見について、具体的施策等の提言、差別化・独自性、具体性・実現可能性、文字などの修正、賛同・支援、その他といった種類ごとに区分コードを設定し、分類を行った。

区分別コード	意見の種類	内容(判断基準)	件数	割合
1	具体的施策等の提言	具体的な施策等の提言	32	47%
2	差別化・独自性	他との差別化や独自性を求める意見	3	4%
3	具体性・実現可能性	具体性又は実現可能性を求める意見	8	11%
4	文字などの修正	文字校正・文章表現の修正	9	13%
5	賛同・支援	素案への賛同や支援に対する賛同・支援	3	4%
6	その他	その他の意見	15	21%
計			70	100%



(3) 次期長期ビジョン素案に係る意見と回答一覧

No.	所属	素案のページ番号等	該当項目	意見区分	意見・提言	意見への対応、考え方(回答文)
1	学生	—	—	その他	何を重視した大学であるのかが、いまいち理解できない。語学を重視して世界に羽ばたく人材をつくるのなら、それに対する関心をもっと私たち学生に持たせるようなプログラムを組むべきであると感じる。また、実務的な教育を重視して社会にでて第一線で活躍できる人材をつくっていききたいのなら、語学の授業が多いと感じてしまう。いろいろ取り入れてどっち付かずになって迷走しているというのが、今の関西大学の現状だと思う。	ご意見の趣旨につきましては、今後のビジョン、中期行動計画等を推進していくうえでの参考とさせていただきます。 なお、次期長期ビジョン素案は、教育研究機関としてこれから本学園が目指すべき方向性を提示するものです。各学部・研究科においては、それぞれアドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーを定めるとともに、ビジョンを踏まえた政策目標を掲げております。これらに基づいて、それぞれ教育が行われますことをご理解願います。
2	学生	3・7	—	その他	これらのページに限らず、全体的に言えることだが、教育機関として社会への貢献や社会からの満足度が大事なのは分かるが、学生の満足度を高めることに関しての記述が少なく感じる。満足度が少ないのに帰属意識を感じたり、他の関大と固いネットワークで結ばれたとは思えない。質の高い教育には環境の整備も必要だが、受講生である我々学生の意見もしっかりと活用してほしい。特に授業評価アンケートはほとんど公表されることがなくやってる意味を感じない。あのアンケートを積極的に公表し学生からの視点を活用すべきである。今のままでは、教職員が思う質の高い教育だけで、視点が大きく偏っている。	次期長期ビジョン素案は、教育研究機関としてこれから本学園が目指すべき方向性を提示するものです。これを推進した結果、学生の満足度も含め、当初想定した効果や成果が得られたかどうかについて、学生アンケートの結果等も踏まえながら、検証と改善に努めていきたいと考えております。 なお、授業評価アンケートの結果は、これまでも授業改善のために活用しておりますが、平成28年度から全学生に開示されています。
3	教育後援会	8	学部・大学院の在学者数	具体的施策の提言	20年後は少子化が進むことから、生涯教育にむけて一段とかじをきる必要があり、大学院は修業年限を設けず、単位ごと設定しサマースクール・週末スクールの開講など社会人がとりやすい環境が望ましい。	社会人をターゲットとすることに関しましては、教育の将来像では「年齢を超え、本学園に集う全ての人たちに広く提供する」、社会貢献の将来像では「総合学園として幅広い年齢層に対し教育機会を提供する」といった記述にありますとおり、一定の言及をしており、その重要性を認識しております。ご意見の趣旨につきましては、今後のビジョン、中期行動計画等を推進していくうえでの参考とさせていただきます。
4	教育後援会	25	学縁	具体的施策の提言	より身近に感じてもらうため学長、学部長とのOB・OGを交えたランチョンパーティーなどの開催。	ご意見の趣旨につきましては、今後のビジョン、中期行動計画等を推進するうえでの参考とさせていただきます。
5	教育後援会	19	入学者獲得施策の構築	具体的施策の提言	北陸新幹線の開通、リニアモーターカーの開通などで、益々北陸圏、中部圏からの志願者獲得に力を入れなければならないと思う。	ご意見の趣旨につきましては、今後のビジョン、中期行動計画等を推進するうえでの参考とさせていただきます。
6	教育後援会	18	ボーダレスな受入体制の実現	具体的施策の提言	OB・OGの大学院での在学機会の充実、社会人の経験値による大学院の単位認定制度(会社経営者は、経営学の単位を認定など)	社会人をターゲットとすることに関しましては、教育の将来像では「年齢を超え、本学園に集う全ての人たちに広く提供する」、社会貢献の将来像では「総合学園として幅広い年齢層に対し教育機会を提供する」といった記述にありますとおり、一定の言及をしており、その重要性を認識しております。ご意見の趣旨につきましては、今後のビジョン、中期行動計画等を推進していくうえでの参考とさせていただきます。

No.	所属	素案のページ番号等	該当項目	意見区分	意見・提言	意見への対応、考え方(回答文)
7	教育後援会	13	つながり	具体的 施策の 提言	併設校間の教諭の相互入れかえ、又生徒の入れかえも、ひとつではないか？ 例) 関大北陽中→関大一高へ進学など 関大中等部→関大北陽高へなど	「教諭の相互入れかえ」につきましては、今後のビジョン、中期行動計画等を推進するうえでの参考とさせていただきます。 なお、「生徒の入れかえ」につきましては、各校の教育内容や特色等が異なることから、実施は難しいと判断しておりますが、併設校間の生徒の交流促進に関しましては、今後のビジョン、中期行動計画等を推進していくうえでの参考とさせていただきます。
8	教育後援会	18	ボーダレス	具体的 施策の 提言	・学部間のボーダレス化。いまは学部間にボーダーがあり、学生の学部間のいききを希望すればうごけるようにバーを低くする。	各学部では、教育研究上の目的や3つのポリシーに基づき諸活動を行っております。そのため、学生が学部間を行き来するにあたっては、求められる知識や能力等を有しているかを問うことが必要であると考えております。 ただし、一方で学部間の垣根を低くする取り組みである学際的な学びや主専攻、副専攻制度の導入等については、今後とも検討が必要な課題の一つであると認識しております。
9	幼稚園はぐくみの会	—	—	賛同・支 援	いつも関大幼稚園には大変お世話になっております。 次期長期ビジョン素案を読まして頂き、ぜひ実現させて頂きたい。我が娘が関西大学に通って学んで欲しいと思う 大学像でありました。二十年後、少子化で多種多様な時代でグローバルな社会をどのように生きていくか。将来を見据え、私たち親達も考え行動しなければと再度考えさせられました。 子育て奮闘中の中、母として心身共に健康で豊かな感性、想像力、創造性を持ち、「自分で考え積極的に行動でき、どのような困難も乗り越えられる力を持った大人になって欲しい」と願っております。	次期長期ビジョン素案の内容に対して、ご賛同いただきありがとうございます。今後ともご支援・ご協力いただきますようお願いいたします。
10	校友会・ 評議員	4	全般 (教育の将来 像)	具体的 施策の 提言	関大生は、自己表現力が弱いという評価がある。 「考動力」「革新力」養成教育の具体策として、説得力・文章力を身につける卒業課題を設けるべきである。	ご指摘のとおり、文章力等を身につけることは、重要であると認識しております。そのため、現在、各コモンズにおけるライティング指導や関連するセミナー等を実施することで対応しております。ご意見の趣旨につきましては、今後のビジョン、中期行動計画等を推進するうえでの参考とさせていただきます。
11	校友会・ 評議員	5	全般 (研究の将来 像)	具体的 施策の 提言	「食」「食物」に関する研究を一層充実させるべきである。 人間の本能に直結する研究は、大学の存在感を高め、さすが「関大」という風評・評価は、相乗効果を生み出す。	ご意見の趣旨につきましては、今後のビジョン、中期行動計画等を推進するうえでの参考とさせていただきます。
12	校友会・ 評議員	6	全般 (社会貢献の将 来像)	具体的 施策の 提言	イノベーション創生センターや梅田キャンパスを有効活用して、無償ないしは低額で知識伝播を図る体制を早期に確立する必要がある。	ご意見の趣旨につきましては、今後のビジョン、中期行動計画等を推進するうえでの参考とさせていただきます。
13	校友会・ 評議員	7	全般 (組織運営の将 来像)	具体的 施策の 提言	「大学の自治」とは、「教授会の自治」ではない。 大学経営として、理事会・評議員会の活性化と発信力の強化が必要である。 大学ガバナンスを再検討すべきである。	次期長期ビジョン素案では、組織運営の政策目標②において、「ガバナンス体制の整備」として、「法人・教学のリーダーが十分に力を発揮し、適切な運営が行えるよう、人的、組織的体制を整える。」と掲げ、柔軟で堅牢な組織を目指してまいります。
14	校友会・ 評議員	8	数値イメージ	その他	過去20年前の数値も入れると一層将来が見えてくると思う。 また、列挙の項目も、全体像をイメージできるものを数多く表記するべきである。	ご指摘の内容を踏まえ、20年前の数値を入れるように調整いたしました。 なお、数値イメージの設定に際しては、20年後の将来像をイメージしやすくするため、全体的なバランスに配慮しつつ、必要最低限の項目を挙げることであります。

No.	所属	素案のページ番号等	該当項目	意見区分	意見・提言	意見への対応、考え方(回答文)
15	校友会	6	社会貢献の将来像	賛同・支援	「大阪に所在することは今や本学のアイデンティティになっている」その意味で「なにわ大阪研究センター」が設置されたことは実を的を得ている。大阪人はユーモアやサービス精神に富んでいる。「いろいろなことをおもしろがる大学」が「関西大学」につながる。	次期長期ビジョン素案の内容に対して、ご賛同いただきありがとうございます。今後ともご支援・ご協力いただきますようお願いいたします。
16	校友会	14	併設校の教育改革政策目標④ 根拠・背景	具体的施策の提言	情報発信のやり方が大切。 難しい言葉でなく、シンプルにわかりやすく印象に残る発信をする。	ご意見の趣旨につきましては、今後のビジョン、中期行動計画等を推進するうえでの参考とさせていただきます。
17	校友会	19	学生の受入政策目標① 指針・ポイント③	具体的施策の提言	大学生への仕送りが年々減少し、約9万円と過去最低額を更新している昨今、近畿以外の入学者を増やすには“寮”が必要だ。 希望者には朝食、夕食付きにすれば健康面で保護者も安心できる。 平成28年4月12日の毎日新聞「くらしナビ・学ぶ」(別添)を参照していただきたい。	ご意見の趣旨につきましては、今後のビジョン、中期行動計画等を推進するうえでの参考とさせていただきます。 なお、次期長期ビジョン素案を検討する中で、ご指摘のとおり、経済的支援策としての寮の役割は、今後とも必要であると考えますが、これに加え、今後は教育寮としての役割が一層重要になるとの認識もっております。
18	校友会	23	全般(就職支援)	具体的施策の提言	学生の最大重要事項は卒業後の職業・収入源である。 キャリアアップの支援、豊富な選択肢の提供など、「関大のお陰で」と感謝されること、重要である。	ご意見の趣旨につきましては、次期長期ビジョン素案においても、概ね同様の視点で策定しており、今後とも積極的にキャリア形成支援・就職支援に取り組んでまいります。
19	校友会	25	組織運営政策目標③ 根拠・背景	具体的施策の提言	関西大学の校友は母校を誇りに思い、強い愛校心を持っている方が多い。 この政策目標の実施主体が連携し、情報を縦横に密に交換することが重要。	ご意見の趣旨につきましては、今後のビジョン、中期行動計画等を推進するうえでの参考とさせていただきます。
20	校友会	25	組織運営政策目標④ 指針ポイント①	具体的施策の提言	収入を増やすには不要なものを減らす。産学が連携して売れるものを作る。賃貸収入を得ることを考える。 関西学院大学に「三田屋」、京都大学にフレンチのお店などがはいつている。収益にはつながらないが、関大にもおいしいお店を誘致して一般の人が食事にフラッとこられるような環境作りをして、関大をアピールする。	ご意見の趣旨につきましては、今後のビジョン、中期行動計画等を推進するうえでの参考とさせていただきます。
21	校友会	25	全般(財政の健全化)	具体的施策の提言	スクラップ&ビルドの原則に基づき、効果的かつ効率的にスクラップに取り組まなければ、健全化は果たせない。	ご意見の趣旨につきましては、次期長期ビジョン素案においても、概ね同様の視点で策定しており、今後とも財政基盤の安定化に努めてまいります。
22	校友会	26	組織運営政策目標⑤ 指針・ポイント①	具体的施策の提言	千里山キャンパスの建ぺい率が限界に達しているため、グラウンドを千里山近辺で取得する。 一中、一高、大学は一貫教育の実を上げ、つながり(連携)を強化するためにも、千里山キャンパスで学ぶことが大切。 今年度から公立の小中一貫校が開校し徐々に増えていくので、私立校の特徴をアピールすることが重要。	ご意見の趣旨につきましては、今後のビジョン、中期行動計画等を推進するうえでの参考とさせていただきます。
23	理事・監事	2	建学の精神	文字などの修正	「正義を権力より護れ」→「正義を権力から護れ」とする。	歴史的な経緯から、「正義を権力より護れ」という表現としております。

No.	所属	素案のページ番号等	該当項目	意見区分	意見・提言	意見への対応、考え方(回答文)
24	理事・監事	3	全体の将来像 11行目「本学園としては」	文字などの修正	「関西大学は」とする。	本法人は、併設校を有する総合学園であり、全体の文言を調整する中で、「本学園」という表現にしております。
25	理事・監事	4	教育の将来像	具体的施策の提言	「地域を題材とした新しいフィールド・ワーク型授業の導入」ー地域の現場でその地域の課題を発見し、解決策について地域住民等と討議のうえ地域活性化や社会のあり方について検討を行う地域に貢献できる人材を育成するーを盛り込む。 なお、上記の意見はそれぞれの政策目標で記述してもよい。	ご意見の趣旨につきましては、次期長期ビジョン素案においても、概ね同様の視点で策定しており、今後のビジョン、中期行動計画等を推進するうえでの参考とさせていただきます。
26	理事・監事	5	研究の将来像	具体的施策の提言	「新産業創生事業の展開」ー学生と社会人が協働して地域再生のための新産業創出の核となる「ものづくり人材創出拠点形成に向けた関連事業」などを実施し、地域のための取り組みを展開するーを盛り込む。 なお、上記の意見はそれぞれの政策目標で記述してもよい。	ご意見の趣旨につきましては、今後のビジョン、中期行動計画等を推進するうえでの参考とさせていただきます。
27	理事・監事	6	社会貢献の将来像	具体的施策の提言	主要都市にサテライトオフィスを設置し地域ニーズを踏まえた多様な講座、イベントを展開する外、自治体や経済団体、他大学と連携を図り地域の課題解決に向けて積極的に取り組み社会貢献を推進することを盛り込む。 なお、上記の意見はそれぞれの政策目標で記述してもよい。	ご意見の趣旨につきましては、今後のビジョン、中期行動計画等を推進するうえでの参考とさせていただきます。
28	評議員	4・5	教育/研究の将来像	差別化・独自性	現存の学部、研究科、あるいは、専攻や学科のうち、他の関西の大学(関同立、阪大、神戸大、京大etc.)にはない研究/教育実績を上げている部署は一層の発展があるよう力を入れ、他大学が「あの分野は関大にはかなわん！」と言うように、関西で独占的地位を占めるようにしてはどうでしょうか。そのような部署を関大の目玉として広報し、関大ブランドが定着することが肝要かと思われ。「グローバル」「世界レベル」「国際化」など他大学も力を入れている領域で負けないことも大切ですが、関大固有のブランド作りの1つとして上に述べたことを検討していただくことを望みます。	ご意見の趣旨につきましては、今後のビジョン、中期行動計画等を推進するうえでの参考とさせていただきます。
29	評議員	13・14	併設校の教育改革	その他	3校有る併設校について、それぞれに特徴有る学園を目指し、特徴付け、それぞれの特徴を差別化し、多様な学生の確保に努める事は素晴らしく有りますし、それぞれの学園の連携や関大人としての人的品質の確保などに向けて、併設校教員などが連携し、交流を持ち、且つ大学との教育に関する意見の交換を行い、しいては18才人口減少の中、より優秀な学生を関西大学に引き留める事の努力が必要であると考えます。が、現在の併設校の学生指導の方向が外部受験を奨励するような形となっていると感じます。併設校の社会的な評価レベルを上げるための、難関大学への外部進学の可能性を否定するものではありませんが、昨今聞こえます声にはそここのところが大きくクローズアップされ、本来の目的であるはずの18才学生の囲い込みが、成されていないと感じます。この部分についてももう少し明確な指針をお出し頂きたいと思えます。	ご意見の趣旨につきましては、今後のビジョン、中期行動計画等を推進するうえでの参考とさせていただきます。

No.	所属	素案のページ番号等	該当項目	意見区分	意見・提言	意見への対応、考え方(回答文)
30	評議員	2	学是に謳われる「体育の奨励」	その他	<p>学是には「体育の奨励」が謳われていますが、長期ビジョンの中にあまり謳われていないようなので少し意見を申し上げます。毎々、体育OB会から言われますスポーツ推薦などについてももう少し触れられては如何でしょうか？学校として今後のスポーツ振興を考える中、一般の学生のスポーツのレベルを模範、手本となり引っ張っていくトップアスリートを、全入学生に比してどれくらい受け入れるかと言う議論が無いように感じます。他校の実数を持って訴えられる体育OB会のお気持ちも解りますが、各校に於いて入学の人数も違い、学部数も異なり、スポーツ文化を通じてそのクラブ数や公認される同好会の数も違います。それを鑑みずに絶対数理論で訴える事も無理があると感じますし、現在の学生の活動成果のみを持って、充足しているとの判断も少しおかしく感じます。いずれにせよ次世代の関西大学の学生課外活動(スポーツのみならず)の魅力をどう18才学生達にアピールするかの議論が必要と感じます。</p>	ご意見の趣旨につきましては、今後のビジョン、中期行動計画等を推進するうえでの参考とさせていただきます。
31	評議員	25	組織運営 政策目標 ③	具体的施策の提言	<p>「学縁を基にした人的ネットワークの拡充とブランド力の向上」として、ステークホルダーと良好で濃密な関係を構築するため、全ての関大人(在学生、教育後援会、校友、教職員等)と強いネットワークを結ぶとありますが、それ以外にも教育後援会のOB組織である「千寿会」の活用を今以上に図るべきと思います。千寿会は、校友会や教育後援会のような公式団体ではありませんし、関大出身者でない人を多く含みますが、在学生ならびに校友の父母を組織化した、他大学にも例のないものであり、周年募金においても大きな役割を占め、また各界で活躍されている方々も非常に多く、今後の対応によっては就職支援にもより一層の貢献を期待できると思われます。現在千寿会は、60周年を迎え 創設者である森本顧問のリーダーシップのもと活発に活動していますが、近年 総会への参加者は、減少傾向にあり、将来の会の維持存続が危ぶまれると感じております。現在でも千寿会は、関大において重要な役割をしていると思いますが、より以上に会を機能させるために法人主導で活性化への手を打つべきと考えます。</p>	ご意見の趣旨につきましては、今後のビジョン、中期行動計画等を推進するうえでの参考とさせていただきます。
32	評議員	7・25	組織運営 政策目標 ④	差別化・独自性	<p>「財政基盤の強化と予算編成体制の再構築」 18歳人口の減少によりP8の数値イメージにおいても学部生の大幅減少を見込む一方 ST比の改善も見込むと言う、財政的には、相反する非常に難しい形を目指していると感じています。 P25に対策をいくつか立てられています、これで足りるのかどうか不安を感じます。</p> <p>根源的には、他大学との差別化を図り、日本一や関西一の研究、学部、スポーツ等を長期的に育てることが、好循環となり、財政にも大きく寄与できると思います。現在 受験生、保護者および一般人にとっても、あまり関大のカラーは明確に伝わってこないと思います。よって総花的な大学でなく、なにか尖ったところのある大学を長期VISIONとして目指していただきたいと思えます。</p>	ご意見の趣旨につきましては、今後のビジョン、中期行動計画等を推進するうえでの参考とさせていただきます。 なお、財政基盤の強化策としましては、次期長期ビジョン素案で記載された対策以外にも、今後必要な措置を講じることとしております。

No.	所属	素案のページ番号等	該当項目	意見区分	意見・提言	意見への対応、考え方(回答文)
33	評議員	全般	全般	その他	カタカナが多すぎ、日本語で説明できないものは、信じられない。練られていないように感じる。記録としてはよいかもしれないが、まとめようとする努力が見られない。もっと削いで、核心のみにすべきだ。	わかりにくい言葉については、用語集で補足することを検討しております。また、次期長期ビジョン素案の内容を抜き出したダイジェスト版を作成いたします。
34	評議員	3	グローバル人材の育成	具体性・実現可能性	2016/05/02 日経新聞朝刊 19 ページ「大学の素顔見えやすく」に、『グローバル人材を育てる』といった抽象的な表現ではなく、具体的な数値をあげてほしいとある。(資料1) 考えてもらいたい。	数値イメージの設定に際しましては、20年後の将来像をイメージしやすくするため、全体的なバランスに配慮しつつ、必要最低限の項目を挙げております。なお、ご意見の趣旨につきましては、今後の議論の参考とさせていただきます。
35	評議員	7	盤石な組織体制と財政基盤を確立する	具体性・実現可能性	P10 以降を読んでも、具体的にどのようにして確立するのが書かれていない。	磐石な組織体制と財政基盤を確立することは、本学園の経営面で極めて重要な課題であると認識しております。財政基盤の強化策としましては、次期長期ビジョン素案で記載された対策以外にも、今後必要な措置を講じることとしています。今後とも、英知を結集し、ビジョン、中期行動計画等を推進する中で、具現化してまいりたいと考えております。
36	評議員	8	1 学生・生徒数併設校の備考	その他	平成 26 年 10 月の評議員会資料「2010 プロジェクト検証結果概要(財政面)」の下から 2 段落目「北摂エリアに集中する併設校間の競合関係等も十分勘案のうえ、・・・(資料2)」とある。このように、競合することがわかっていて学校を作るという愚かな判断は、もうやめてもらいたい。そのうえで、海外での学校などについては、同種の大学併設校で行っている前例があるように聞いているので、財政面も含めて慎重に判断してもらいたい。	ご意見の趣旨につきましては、今後のビジョン、中期行動計画等を推進するうえでの参考とさせていただきます。
37	評議員	8	数値イメージ	具体的施策の提言	「2 大学・大学院教員数 専任教員(特任外国語・体育講師含む)」 大学設置基準を参考に、必修でない科目の教員(講師)について、自然減などで計画的に適切な人数にする。これにより、より必要な教員の確保に対応する。ただし、これには、学長だけでなく、教学全体の同意が必要と考える。	ご意見の趣旨につきましては、今後のビジョン、中期行動計画等を推進するうえでの参考とさせていただきます。
38	評議員	22	学生支援指針・ポイント①	その他	「給付奨学金を新規導入する」 全体に寄付に頼ろうとする面が感じられる。その中での給付奨学金は、持続可能か疑問だ。	学納金に依存することには限界があり、収入の多様化が求められていることから、寄付金収入は、重要な収入源の一つではあると考えております。ただし、過度に依存するのではなく、例えばワークスタディ等、様々な方法も取り入れつつ、学生への経済的支援を行ってまいりたいと考えております。
39	評議員	24	組織運営政策目標① 指針・ポイント①	その他	「多様で柔軟な働き方を可能とする」 この表現の場合、たいてい非正規雇用だ。卒業生には、正規雇用を望んでいる大学として、それでよいのか。	「多様で柔軟な働き方を可能とする」という表現は、ダイバーシティを志向する文脈で用いておりますことをご理解願います。
40	評議員	24	組織運営政策目標① 指針・ポイント①③	その他	「人事制度を見直し」 人件費を抑制することが主目的で、理由を後付けして、ごまかすような人事制度であれば承認できない。	「人事制度を見直し」という表現は、教育・研究力の強化や個人の能力を最大限に発揮できるようにすることを、主目的としておりますことをご理解願います。
41	評議員	25	組織運営政策目標④ 指針・ポイント①	その他	「積極的に収入源の多様化を図る」 再度、仕組債などリスクの高い資産運用を行うつもりなのか。非常に心配だ。	学納金に依存することには限界があり、収入の多様化が求められるとの認識をもっております。ただし、資産運用については、資金運用委員会等において、方針を厳格に定め、これに基づき慎重に実施しておりますことをご理解願います。

No.	所属	素案のページ番号等	該当項目	意見区分	意見・提言	意見への対応、考え方(回答文)
42	評議員	26	組織運営 政策目標⑤ ポイント①政策目	その他	「高槻ミュージックキャンパスでは、将来の建替を勘案しながら…」 ミュージックキャンパスは、2010年4月開設で、10年も経過していない。一方、一中の扇形校舎は、1957年(昭和32年)竣工である。どちらを先に建替るかは、言うまでもない。	ここで記載しております内容の趣旨は、見出しにありますとおり「将来的なキャンパスの検討などトータルキャンパスブランドデザインの策定」です。ご意見をいただいた箇所は、その際の課題認識の一つとして、2010プロジェクトの検証結果において、高槻ミュージックキャンパスに関しては超長期的な観点に基づき計画的な更新が必要との指摘事項を踏まえたものであり、他の建物と比較して何らかの優先順位を述べたものではないことをご理解願います。
43	教育職員	8	数値イメージ	具体性・実現可能性	<p>■外国人留学生をこの先20年で8000人増加させるというのは、非現実的なビジョンであると思われる。</p> <p>・これを実現するということは、単純に計算しても外国人学生を年400人ずつ増加させるということになる。外国人学生の受け入れのケアをするには、人的リソースが激増させる必要が生じる。教員のみならず専門の職員を多数おき、留学生受け入れ業務にあたらせることになる。いくら増やすと言っても、この率は非現実的にすぎる。</p> <p>・関西大学のアイデンティティと、多数の外国人学生の受け入れにつながるアピールポイントが、本ビジョンではうまく結びついていないように見える。外国人の学生が、敢えて大阪の私学に来る意味は何なのか、ということを示せないと、外国人学生を増やすといっても机上の空論に見える。</p>	外国人留学生については、短期、中期、長期を合わせた延べ人数を示しております。また、これらの数値は、今後必要な措置を講じることによって、20年かけて目指したいと考える一つの方向性を示すものであります。したがって、具体的な方策を講じ、その進捗状況によっては、数値の見直しを行う必要もあり得ると考えております。なお、外国人が本学に留学する目的の明確化が必要であるのご指摘に関しましては、今後のビジョン、中期行動計画等を推進するうえでの参考とさせていただきます。
44	教育職員	8	数値イメージ	具体性・実現可能性	<p>■16,000人の学生に、在学中に海外留学を経験させるということについて、いくら「イメージ」でも数値を見直すべきではないか。</p> <p>・海外留学すれば「国際化」ということになる、というのは短絡ではないか。国際化には国内的課題も多数あるし、単に少し海外の学校に行ってみただけで「国際化」したことになるというのも理に合わない。</p> <p>・留学させるということは、その分の教育を海外のどこかに委託するということである。これを「関西大学」が主体となってやるとすると、関西大学として学生にほどこす教育は何なのか、という疑問にも繋がらないか。</p> <p>・国外のテロ・事故リスクなどを鑑みても、16,000人の学生に留学をさせるには、学内教職員の人的リソースを非常に多く割く必要がある。そういった面での見通しがあるように見えない。</p>	派遣留学生数につきましては、短期、中期、長期を合わせた延べ人数を示しております。また、これらの数値は、今後必要な措置を講じることによって、20年かけて目指したいと考える一つの方向性を示すものであります。したがって、具体的な方策を講じ、その進捗状況によっては、数値の見直しを行う必要もあり得ると考えております。
45	教育職員	8	数値イメージ	具体性・実現可能性	<p>■外国語による授業の割合を25%に増やすことについて。</p> <p>・これは外国人留学生増加を見越しての数値イメージと推察するが、母国語以外の外国語(特に英語)に堪能な外国人留学生は、そもそも関大には来ない。現状を見ても関大に来るのは日本語を/で学びたい学生であり、ニーズに合致しているのか疑問に思われる。</p> <p>・4分の1を外国語で学習するカリキュラムにすると、学習効率がどうしても落ちるため、学士課程内では専門的な内容にまで踏み込めずに終わる、ということを覚悟しなければならないと考えられるが、そういったことは見込んでいるのか。</p>	外国語による授業は、外国人留学生だけを対象にするものではなく、日本人学生についても対象としております。また、これらの数値は、今後必要な措置を講じることによって、20年かけて目指したいと考える一つの方向性を示すものであります。したがって、具体的な方策を講じ、その進捗状況によっては、数値の見直しを行う必要もあり得ると考えております。なお、外国語で学習するカリキュラムにすることにより、学習効率が落ちるとのご意見につきましては、今後のビジョン、中期行動計画等を推進するうえでの参考とさせていただきます。

No.	所属	素案のページ番号等	該当項目	意見区分	意見・提言	意見への対応、考え方(回答文)
46	教育職員	18	国際化政策目標⑤ 指針・ポイント③	その他	<p>国際化を牽引する新学部およびインスティテュート(仮称)の設置を検討する</p> <p>国際化を牽引する学部や組織を新たに作るのではなく、既存の学部の国際化を全力をあげて促進することが何よりも大切ではないか。以前から出ていた国際教養学部の設置などは、すでに周回遅れの様相を呈しており、全国に多数の「国際学部」が存在している状況となっている。この中で、「国際系」の新学部設置を謳うのは、長期ビジョンとしては時代遅れである。また、国際化を牽引するとは何を意味するののかもよくわからない。さらに、既存の学部との棲み分けすら明確ではなく、学内に要らぬ不協和音を招くだけではないかと危惧する。以上より、本政策目標の撤回を求めたい。</p>	<p>本案の趣旨は、今後の本学の国際化における組織的なイノベーションとしての選択肢の一つとして提示しているものです。特定の学部の特化した国際化を想定しているのではなく、既存学部・研究科の国際化の進展を含めた全学的な視点から、新学部等の設置を議論することを提言しております。</p> <p>なお、設置については、当然のことながら、既存学部・研究科の理解と協力が前提と考えておりますが、ご意見を踏まえ、一部文言を修正いたしました。</p>
47	教育職員	18	国際化政策目標⑤ 指針・ポイント③	具体的施策の提言	<p>「国際化を牽引する新学部およびインスティテュート(仮称)の設置を検討する」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10年ほど前から国際〇〇学部と名をうったグローバル系の学部が設立され始めたが、すでに関西圏でも複数の大学に国際系の学部が出来ている。学生数が減るこの時期に国際系学部の設置を検討するのは時期を逸しているといわねばならない。 ・関西大学ではそれぞれの学部が外国の大学との提携や語学研修を行っている。新学部の設置はこのような学部の試みを無視するものであり、(国際系)新学部が設置されることで複数の学部の学部運営を困難にし共倒れを招きかねない。 ・以上の点から考えて、国際系新学部の設置は今後の大学運営に大きな利益を生むとは考えられない。 ・現状を大きく変えず関西大学が国際化の波に乗り遅れないようにするには、「国際〇〇」という表面的な文言にこだわらず、関西大学内部の国際化に関わる体制を整えることに焦点を合わせるべきであろう。例えば、 <ul style="list-style-type: none"> －既存学部の国際化を推進しつつ全学部に通ずるサポート体制を構築する －学部横断的な国際化のカリキュラム(ex.商学部、経済学部、外国語学部共同の国際ビジネスコース)を設置する など、現実的かつ柔軟な視点をもった方策を取ることで、既存学部の利益を損ねず、実質的な国際化を行うことが可能になるはずである。 	<p>本案の趣旨は、今後の本学の国際化における組織的なイノベーションとしての選択肢の一つとして提示しているものです。特定の学部の特化した国際化を想定しているのではなく、既存学部・研究科の国際化の進展を含めた全学的な視点から、新学部等の設置を議論することを提言しております。</p> <p>なお、設置については、当然のことながら、既存学部・研究科の理解と協力が前提と考えておりますが、ご意見を踏まえ、一部文言を修正いたしました。</p>
48	教育職員	8	数値イメージ	その他	<p>「併設校」</p> <p>備考欄に海外現地校、日本人学校、全寮制の学校など…と記載されているが、現在、三併設校が同じ阪急京都線沿線に近接して設置され、優秀な生徒確保に苦慮する現状であるにもかかわらず、併設校を増やし、かつ海外に設置するという考えには賛成しかねる。また、生徒数に関しても、2036年には5000人の生徒数とする案もどうかと思われる。少子化の中、生徒数増を図ることは自ずとレベル低下につながりかねないので規模の維持という点においては賛成であるが、拡大については賛成しかねる。ブランド力の向上は当然目指さなければならないが、それに当たっては、大学のブランド力アップも同時に図る必要があると考える。</p>	<p>併設校における生徒数の数値イメージ:5,000名につきましては、基本的にはほぼ現状規模を維持することを前提とした数値です。</p> <p>なお、備考欄の特色ある併設校の設置に関しましては、ブランド力の向上、グローバル化、少子化対策の観点から、検討が必要な事例として記載しておりますことをご理解願います。</p>

No.	所属	素案のページ番号等	該当項目	意見区分	意見・提言	意見への対応、考え方(回答文)
49	教育職員	18	国際化政策目標⑤ 指針・ポイント③	その他	<p>「国際化を牽引する新学部およびインスティテュート(仮称)の設置を検討する」</p> <p>(1)新学部や機構を作るより、既存学部の国際化を支援すべき。一学部だけが国際化するということが、「大学のグローバル化」と言えるのか基だ疑問である。</p> <p>(2)国際(教養)系学部は周回遅れで長期ビジョンとしてふさわしくない。競合している大学にはないような学部を設立するのであれば、他大学との差別化を図れるが、他大学にある学部を今更作るのは賢明とは思えない。</p> <p>(3)新学部は既存学部(特に外国語学部)との棲み分けが難しい。</p> <p>(4)国際業務が肥大化しており適正な運営とはいえない</p>	<p>本案の趣旨は、今後の本学の国際化における組織的なイノベーションとしての選択肢の一つとして提示しているものです。特定の学部の特化した国際化を想定しているのではなく、既存学部・研究科の国際化の進展を含めた全学的な視点から、新学部等の設置を議論することを提言しております。</p> <p>なお、設置については、当然のことながら、既存学部・研究科の理解と協力が前提と考えておりますが、ご意見を踏まえ、一部文言を修正いたしました。</p>
50	教育職員	18	国際化政策目標⑤ 指針・ポイント③	具体的 施策の 提言	<p>「国際化を牽引する新学部およびインスティテュート(仮称)の設置を検討する」について</p> <p>新学部や機構を設置するより、既存学部の国際化を支援すべきです。「国際学部」のような教養系学部は、文科省が国公立大学の文系学部縮小を打ち出している今、長期ビジョンとして魅力的には見えなと思います。また、新学部設立は、既存学部との学問的棲み分けが難しく内部調整にも障害があると考えられます。むしろ、既存の学部がそれぞれの強みを活かして国際化を進める方策を充実させるほうが望ましいと思います。</p>	<p>本案の趣旨は、今後の本学の国際化における組織的なイノベーションとしての選択肢の一つとして提示しているものです。特定の学部の特化した国際化を想定しているのではなく、既存学部・研究科の国際化の進展を含めた全学的な視点から、新学部等の設置を議論することを提言しております。</p> <p>なお、設置については、当然のことながら、既存学部・研究科の理解と協力が前提と考えておりますが、ご意見を踏まえ、一部文言を修正いたしました。</p>
51	教育職員	13	併設校の教育改革政策目標① 指針・ポイント③	具体的 施策の 提言	<p>「実践的な能力育成」</p> <p>私は関大一高一中の英語科教員です。日々、生徒が主体的に「読む・書く・聴く・話す」4技能を統合的に学ぶ授業の実践に努めています。しかし、本校では英語教育環境が十分に整っているとは言えません。同じ併設校である関大高等部・中等部と比較しても、英語授業時数、少人数授業時間数、英語教員数、英語教室数全てにおいて、著しく劣っていると言わざるを得ません。本校では、2分割授業が行われているのは、中学2年と3年の3時限のみで、高校においては全く行われていません。教室数の不足や専任教員数の不足が主な理由です。</p> <p>日本の英語教育でアクティブ・ラーニングがより一層推進されていく中、私学でこのような英語授業環境の悪い学校も少ないのではないのでしょうか。それでも、私は与えられた環境でなんとか実践的英語授業を行う努力をしています。このような取り組みをしている人は少数派です。今や学校をあげてアクティブ・ラーニングに取り組む時代が来ています。本校もこの流れに取り残されてはならないと危機感もっています。まずは、全教員がアクティブ・ラーニングに取り組める環境(2分割授業時間数の増加、それに伴う英語教員数の増員、教室の増設)が求められます。ぜひ、ご支援下さいますようお願い申し上げます。</p>	<p>ご意見の趣旨につきましては、今後のビジョン、中期行動計画等を推進するうえでの参考とさせていただきます。</p>

No.	所属	素案のページ番号等	該当項目	意見区分	意見・提言	意見への対応、考え方(回答文)
52	教育職員	13	併設校の教育改革政策目標②	具体的 施策の 提言	<p>「教員・教諭の”つながり(連携)”の強化」</p> <p>現在、文部科学省は大学入試を含む高大接続一体化改革を推進しています。「思考力・判断力・表現力」と「主体性・多様性・協働性」全てを向上させるアクティブ・ラーニングが奨励されています。英語教育に関しては、日本人の実践的英語運用能力を向上させるべく、2020年から大学入試で4技能が問われることになりました。文科省も認めるように、大学入試が変わらなければ、中等教育も変わらないからです。この動きは、関大と関大併設校の接続においても実現されるべきだと、私は強く思います。つまり、英語内部入試では、現行の外部模試を廃止し、4技能試験に変えるべきだと考えます。それにより、高校における旧来型の文法・訳読一辺倒の模試対策授業から脱却し、上記のような本当の意味での英語運用能力を身につけるための授業を提供できるようになると思われれます。</p> <p>このためには、関大外国語学部の先生方と、各併設校の英語教授法(TEFL)の知識と実践経験のある教員の建設的で具体的な意見交換をする英語教育接続委員会を創設していただきたいのです。私は、関大大学院外国語教育学研究科で学び、修士号を取得しました。中・高・大の英語一貫教育において、関大と本校の橋渡しの役割ができればと望んでいます。ぜひ、英語教員による専門的な接続委員会を新設し、そこで私達のような意欲のある教員に意見を述べる機会を与えて下さい。必ずや、関大と関大併設校の英語教育発展にお役に立てると自負しています。</p>	<p>ご意見の趣旨につきましては、今後のビジョン、中期行動計画等を推進するうえで参考とさせていただきます。</p> <p>なお、現在、大学と併設校の間で、接続や連携強化を図るため、一貫教育協議会、接続専門委員会を設置しており、必要に応じて、これらの委員会で協議するのも有効であると考えられます。</p>
53	事務職員	8	数値イメージ	具体性・ 実現可能性	<p>P8の「20年後の数値イメージ」で、20年後の学生数が明記されている。これによれば、学部生数を減らし、大学院生を増やすことが示されている。18歳人口の減少予測を踏まえれば、学部生数の減少を中心とした大学の規模縮小のシナリオを描くのは当然である。</p> <p>しかしながら、P10以降の政策目標において、このことを具体的に進めるための政策目標が書かれていない。組織運営の政策目標に「大学の規模縮小のシナリオの構築」を追加すべきではないか。規模縮小ではマイナスイメージが強すぎるため、たとえば「少数精鋭化」などといったプラスイメージの言葉を使う必要はあるかもしれないが。</p> <p>なお、これに関連して、P25の政策目標④において、根拠・背景で「長期的には本学においても学生数の減少が見込まれる中」としながら、指針・ポイント①で「収入においては、根幹となる学納金収入を維持するとともに」と書かれている。この両者は矛盾しているが、矛盾させてはならない。この両者を矛盾させないために、数値イメージで描かれているとおり、「学部学生数を減らしつつ、大学院生を増やす」方針の確認と、そのために何をするかを今後検討する必要がある。その布石を打つ意味で、「大学の規模縮小のシナリオの構築」という政策目標が不可欠だと考える。</p>	<p>ご意見の趣旨につきましては、今後のビジョン、中期行動計画等を推進するうえで参考とさせていただきます。</p>

No.	所属	素案のページ番号等	該当項目	意見区分	意見・提言	意見への対応、考え方(回答文)
54	事務職員	KU vision 150		賛同・支援	<p>テーマ：多様性の時代を、関西大学はいかに生き抜き、先導すべきか。 (導入) 今後20年間は、まずはいずれかの分野において「突出」することが最大の課題だと考えます。今までに成しえなかったこの「突出する」という変化でのみ関西大学の大学間序列(例えば関関同立内の偏差値序列など)が動き、受験生や企業等から選ばれる大学となり、ひいては多様性の時代を生き抜き、先導しようと考えます。従って、この考えに基づいて、示されたサブテーマを念頭に置きながら以下のとおり自身に問いかけながら事務職員として考動していきたいと考えます。</p> <p>教育: 優良企業等に就職する100人の人材を輩出するだけでなく、アインシュタインや、スティーブ・ジョブスのような一人の傑出した偉人を輩出する教育の支援を行うにはどうすればよいか。</p> <p>研究: 関西大学で行われる研究からノーベル賞受賞者が輩出されるような基礎研究の土壌を作るための支援を行うにはどうすればよいか。</p> <p>社会貢献: 理念に基づいた教育と研究を存続すれば、社会から必要とされ、それがひいては必然的に社会貢献になると考えるので、この分野については省略します。</p> <p>組織運営: 身を切る改革を厭わず、スリムな事務部門をめざし、各部署の業務を垣根無く検証して、外部業務委託だけでなく、ICTやAI等を導入してさらなる効率化およびコストカットを行い、ひいては突出した意思決定の速さと財務体質の健全化を実現するにはどうすればよいか。</p>	冒頭のビジョンのメッセージに「今般、この問いに応じ示した将来像は、ひとつの答えである。ただし、唯一の答えではない。予測困難な時代にあって、未来を問い、対話を重ね、答えを模索し挑戦する姿こそ、我々の目指すべき将来像なのだ。」と記載しております。この趣旨を十分ご理解いただき、ありがとうございます。今後ともご支援・ご協力いただきますようお願いいたします。

No.	所属	素案のページ番号等	該当項目	意見区分	意見・提言	意見への対応、考え方(回答文)
55	事務職員	総論		差別化・独自性	<p><総論></p> <p>次期長期ビジョンは、全体としてよくまとめられていると思います。それぞれの意見は正論であり、異議を唱えるものではありません。しかし、その半面で総花的であり、どの大学のビジョンか没個性の感が否めません。</p> <p>文部科学省は、教育の質保証に関連し大学に対して「3つのポリシー」を明確にすることを求めています。私立大学には設立時から「建学の精神」があります。今後は一層の国際化・グローバル化により、ボーダーレス化がさらに進みます。多様性が増しトランスナショナルとなった20年後のビジョンとして、関西大学の独自性・アイデンティティーである「建学の精神」や学是をもっと強調し、具現化すべきであると思います。</p>	次期長期ビジョン素案を検討する際、ご意見のとおり、建学の精神及び学是に立ち返るとともに、これらを今日的また20年後に置き換えることを念頭に策定いたしました。ご意見の趣旨につきましては、今後のビジョン、中期行動計画等を推進するうえで参考とさせていただきます。
56	事務職員	6		具体性・実現可能性	<p>将来像を示す具体的指標作業部会(案)の数値イメージによると、学生・生徒数では、学部を少し減少した分、大学院を増加しています。少子高齢化でも全体として学部教育に重点を置き、規模を維持する構想であることが推測されます。</p> <p>数値イメージの中で一番気になる点は「財政基盤の確立」であり、次期長期ビジョンの実現には、財政面での具体的な計画、裏付けが必要です。留学生の増加、奨学金の充実を始めとして、支出の増大は目白押しですが、収入源の多様化・増加が心許なければ明るい未来は語れません。</p>	ご意見の趣旨につきましては、今後とも、英知を結集し、ビジョン、中期行動計画等を推進する中で、具現化してまいりたいと考えております。なお、財政基盤の強化策としましては、次期長期ビジョン素案で記載された対策以外にも、今後必要な措置を講じることとしております。
57	事務職員	3	全体の将来像	文字などの修正	<p>全体の将来像 第4段落 1行目 平和で希望に満ちた社会の探求 ⇒ 平和で希望に満ちた世界の探求 理由: グローバルな視点から、本学が人材育成をする目的は、広く平和で希望に満ちた世界を探求すべく変革していく 社会を支えるためであるという展開を表現するため。</p>	検討の結果、ご指摘の箇所につきましては原案どおりとさせていただきますが、文章の流れを精査し、一部文言を修正いたしました。
58	事務職員	4	教育の将来像	文字などの修正	<p>教育の将来像 第3段落 3行目・4行目 プログラム ⇒ 教育プログラム (2箇所) 理由: 文脈から読み取れるが、整備・充実することが求められているのは教育のプログラムであるということをより鮮明にするため。</p>	ご指摘の内容を踏まえ、調整いたしました。
59	事務職員	4	教育の将来像	文字などの修正	<p>教育の将来像 第4段落 2行目 高度の知識や技術 ⇒ 高度の知識や専門的なスキル 理由: 技術という言葉ではテクニカルなものをイメージしやすい。教職員が有するのは、アカデミックかつ専門的な技能であることが多いと思われるため。</p>	ご指摘の内容を踏まえ、調整いたしました。
60	事務職員	5	研究の将来像	文字などの修正	<p>研究の将来像 第2段落 3行目 豊富な研究体験 ⇒ 豊富な研究の積み重ね 理由: 研究体験という言葉では教育の基となる研究の蓄積を表現するには軽すぎるため。</p>	ご指摘の内容を踏まえ、調整いたしました。

No.	所属	素案のページ番号等	該当項目	意見区分	意見・提言	意見への対応、考え方(回答文)
61	事務職員	5	研究の将来像	文字などの修正	研究の将来像 第5段落 1行目 総合大学として ⇒ 総合大学であることの利点を活かして理由: 本学が総合大学であるからこそネットワークの有機的な活用ができることを打ち出すため。	ご指摘の内容を踏まえ、調整いたしました。
62	事務職員	7	組織運営の将来像	文字などの修正	組織運営の将来像 第5段落 3行目 帰属意識や満足感を高める ⇒ 帰属意識や満足感・期待感を高める理由: 校友等が本学のために貢献するのは、本学の現状に対する満足感だけでなく、本学がさらに発展してほしいという将来における期待感もあるからと考えるため。	ご指摘の内容を踏まえ、調整いたしました。
63	事務職員	8	20年後の数値のイメージ	文字などの修正	20年後の数値のイメージ 4 研究活動 博士課程学位授与数(課程博士) 備考欄 課程博士の学位授与者数の向上が必要となる ⇒ 大学院教育におけるコースワーク及び研究指導のさらなる実質化が必要となる理由: 備考欄にはおぼろげながらも学位授与数を向上させるための施策を表すほうがよいと考えるため。	備考欄は、主に数値の示す方向性を補記するものであります。そのため、検討の結果、ご指摘の箇所につきましては、原案どおりとさせていただきます。
64	事務職員	—	—	具体的施策の提言	「教育の質保証」 現在は、各大学ともグローバル化を推進していますが、20年後はどうなっているのでしょうか。文部科学省は世界的なレベルとして遜色のない教育の質保証を求めているように見受けられます。今後、一層の国際化・グローバル化が進むことにより、このままでは大学の個性が失われてしまいます。 現在は、「英語を学ぶ」から「英語で学ぶ」時代へと移行を進めている段階です。20年後には、日本の、そして関西大学のアイデンティティーを「英語で語れる教職員」が必要となっているのではないのでしょうか！ 教育の質保証として、関西大学の独自性・アイデンティティーを打ち出すには、国際化に加えて、教育環境の充実として、学生が大学生活を過ごす、図書館や博物館など大学の根幹である学術情報環境の充実を強調すべきであると思います。	ご意見の趣旨につきましては、今後のビジョン、中期行動計画等を推進するうえで参考とさせていただきます。
65	事務職員	10	教育(大学・大学院)	具体的施策の提言	「情報リテラシー教育の強化について」 ラーニングコモンズの設置や、ICT機器の整備強化により、学生が主体的に学ぶための環境は向上すると思われる。これに加えて、学生が主体的に学びに取り組む中で、情報にたどり着く能力および情報を取捨選択する能力である、情報リテラシー教育を拡充し、浸透させる施策が必要と考える。情報リテラシー能力は、学生の学びの精度・スピード・質を高めることができ、社会人基礎力としても欠くべからざるものである。ICT環境の整備の投資効果を高めるための施策ともなる。次期長期ビジョンにこの観点を加えて、教育推進の諸施策をより実りあるものにできると考える。	ご指摘の内容は、「考動力」や「革新力」における「リテラシー」と「コンピテンシー」の明確化といった課題に関連するものと理解いたしました。これらについては、現在検討を進めているところですので、その際の参考とさせていただきます。
66	事務職員	14	国際化	具体的施策の提言	「英語のみを基軸とした外国語教育のシフトについて」 本学はアジアのハブ大学として、より東アジア、東南アジアの国際交流、言語教育に力を入れてはどうか。 本学の将来の留学制度も、西洋へ半分、東アジアへ半分のミックスシステムにすることをスキームにする等の施策を打ち出すことで、本学にしかない独自色を出す事ができると考える。	本学の国際化においては、必ずしも英語教育に特化しようとしているわけではなく、他の言語も含めた国際化を視野に入れているところです。ただ、今後の人材育成にあたっては異文化コミュニケーションツールとしての学生の最低限の英語運用能力を着実に伸ばしていけるよう、英語教育のあり方を変革していくことも重要な取り組みであります。海外大学のように多言語運用能力の高い学生を育てることが理想ではありますが、わが国の高校までの英語教育の現状や本学における教育体制を踏まえ、まずは英語を中心とした取り組みを推進してまいります。

No.	所属	素案のページ番号等	該当項目	意見区分	意見・提言	意見への対応、考え方(回答文)
67	事務職員	17	国際化政策目標② 指針・ポイント②	具体性・実現可能性	「協定大学数の数値目標について」 次期長期ビジョンでは、協定大学数を400校まで増やすことが指針として示されているが、目標としての妥当性に疑義を持たざるを得ない。400校まで協定数を増やした場合に、その1つ1つの海外の相手先大学との間に実りある交流実績を積み重ね、維持していくためには、今の本学の国際部の体制とは比較にならない人員体制を整えなければいけないのではなかろうか。そして本学がそれほどの人員を国際化を推進する部署だけに、投入できるものなのだろうか。いたずらに数を追い求めるのではなく、1つ1つの相手方とのつながりを大切にし、実情のともなった協定とするために、数値目標を見直すのも大事なことでないかと考える。	これらの数値は、今後必要な措置を講じることによって、20年かけて目指したいと考える一つの方向性を示すものです。 したがって、具体的な方策を講じて、その進捗状況によっては、数値の見直しを行う必要もあり得ると考えております。 また、協定の実質化が重要ということも十分に認識しており、質と量のバランスを図りながら進めることが重要と考えております。
68	無記名	17	国際化政策目標①	具体的施策の提言	政策目標のなかの「インターカルチュラル・イマージョンキャンパス」について、あくまで英語主体の政策であり、他大学の後追いにしか見えない。今日、ただか英語ができただけで「グローバル人材」などはみなしてもらえない。どうせ取り組むのであれば、英語以外の外国語(たとえば近隣国などの言語)にも広げ、関大としての特異性を出していくべきである。「インターカルチュラル」とまで銘打ちながら「英語」に特化するの是不十分である。 現に海外教育拠点として提示されているのは、中国語・タイ語・フランス語・スペイン語などを公用語とするエリアであり、そういったところで実質的に活動するためにも、英語特化にとどまるべきではないと考える。	本学の国際化においては、必ずしも英語教育に特化しようとしているわけではなく、他の言語も含めた国際化を視野に入れていっているところです。ただ、今後の人材育成にあたっては異文化コミュニケーションツールとしての学生の最低限の英語運用能力を着実に伸ばしていけるよう、英語教育のあり方を変革していくことも重要な取り組みであります。海外大学のように多言語運用能力の高い学生を育てることが理想ではありますが、わが国の高校までの英語教育の現状や本学における教育体制を踏まえ、まずは英語を中心とした取り組みを推進してまいります。
69	無記名	19	学生の受入	具体的施策の提言	18歳人口の減少について、グラフも示して(p.9)記述されているが、関西大学がリカレント教育にどのように取り組むのかについて見通しが、入試政策以外に見えない。関大はよほど学生定員などの規模を縮小させるのであれば、リカレント教育に積極的に取り組まねばならないのではないかと。	社会人をターゲットとすることに関しましては、教育の将来像では「年齢を超え、本学園に集う全ての人たちに広く提供する」、社会貢献の将来像では「総合学園として幅広い年齢層に対し教育機会を提供する」といった記述にありますとおり、一定の言及をしております。 また、教育(大学・大学院)の政策目標④指針・ポイント②に【高度職業人の養成】においても社会人教育の方向性を掲げており、リカレント教育の重要性を認識しております。ご意見の趣旨につきましては、今後のビジョン、中期行動計画等を推進するうえでの参考とさせていただきます。

No.	所属	素案の ページ番 号等	該当項目	意見 区分	意見・提言	意見への対応、考え方(回答文)
70	無記名	—	—	具体的 施策の 提言	<p>「奨学金について」 経済状況が不安定な中で、学生及び保護者が支払う事ができる学費などの額は上限に近づきつつあります。今後、大学にとって主要な収入源である学費の大幅な増額は難しいと考えます。関西大学でも、奨学金を利用している学生はかなりの数にのぼります。新聞などの報道では、返済義務のある奨学金を安易に利用したため、学部卒業時には500万円近くの負債を抱えることになる例も報告されています。</p> <p>関西大学でも給付型の奨学金の充実を進めていますが、その財源は超低金利時代では、第3号基本金の運用果実だけでは足りず、毎年の経費から多額の補填をしている状況です。</p> <p>そこで、奨学生を学内アルバイトとして雇用すれば、労働の対価を返済義務のない奨学金として位置づけられるのではないのでしょうか。一般企業でのアルバイトに比べて、大学でのアルバイトは身近で安心安全な労働環境です。学生は本学への労働(奉仕)として奨学金を受給するので、卒業後に返済に悩むこともありません。また、学生にとっても自大学のための役務に関わることができるので、愛校心や帰属意識を高める効果も期待できます。各職場では、学生アルバイトを数多く雇用しています。例えば、オープンキャンパスでの大学案内では、高校生やその保護者などからの評判も非常に良いと聞いています。是非とも、学生アルバイトとして、奨学生を雇用する道を検討すべきです。</p>	<p>経済状況の厳しい学生が多く存在し、大学として一層の経済的支援が必要であると認識しております。現在、本学ではティーチング・アシスタント(TA)、ステューデント・アシスタント(SA)、ラーニング・アシスタント(LA)として、学内で学生を雇用する一定の制度を設けております。これは経済的支援の一環としての制度でもあると位置付けて、実施しております。</p> <p>なお、学内アルバイトと奨学金を一体化させることにつきましては、今後のビジョン、中期行動計画等を推進するうえでの参考とさせていただきます。</p>